

令和3年第1回水道事業運営委員会 議事録

日 時：令和3年2月15日（月）午後2時～

場 所：石狩市役所 5階 第2委員会室

委員出席者：7名

山田会長・小笠原副会長・加藤委員・渡部委員・笹谷委員・渡邊委員・
大黒谷委員

事務局出席者：6名

高野部長・新関課長・佐々木課長・勝又参事・新井田主査・梶原主査

傍 聴 者：1名

議 事：（1）報告

石狩市水道事業の概要について

石狩市水道料金の概要について

石狩市水道事業経営戦略の見直しについて

石狩市新水道ビジョン中間報告について

配 布 資 料：別添のとおり

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【14:00開会】

- 高野部長の挨拶に続き、委員の皆様から自己紹介、新関課長から水道営業課、水道施設課職員の紹介
- 事務局より会議の成立及び会議の公開の報告。
- 会長・副会長の選出
会長については委員の互選、副会長については事務局の推薦により決定（会長に山田委員、副会長に小笠原委員）。
- 会長挨拶
- 会長選出により、以後の議事進行は山田会長が行う。
- 山田会長より、議事録の作成方法について「要点筆記」の提案あり、了承。
- 石狩市水道事業の概要について・・・佐々木課長から説明

小笠原副会長 有収率の改善について、厚田・浜益地区において漏水対策をした結果、全市全体として87%とほぼ平準並みになったという話だが、厚田・浜益地区だけを捉えた場合、およそ何%改善したか。

佐々木課長 浜益は50%を切っている。一時期58%あったのが10%ほど落ちた。厚田はおよそ66%。

小笠原副会長 66%ぐらいに向上したということか。改善する前は50%を切っていたということか。

佐々木課長 50%を切ってはいない。少し改善した程度である。

小笠原副会長 10～20パーセント改善したということか。まだ漏水はしているのか。

佐々木課長 はい。夜間水量が0になることはない。

山田会長 石狩地区は平均しても水量が圧倒的に多いので、90パーセント弱が石狩地区の有収率で推移しているということか。

佐々木課長 厚田・浜益は合併前は簡易水道事業で、「北海道の水道」という各自治体の有収率や有効率のデータの中で、平均およそ70%の有収率となっている。厚田はもう少しで70%に達するところであり、浜益は50%を少し超えているところなので、漏水調査等を行っていかねばならない。

簡易水道はループ管が少ないため、末端部で連続して水を出さなければ残留塩素を確保できない。

そのため、有効率は上がるが有収率は下がり傾向になる。

小笠原副会長 厚田・浜益も常時末端で放流しているのか。

佐々木課長 はい。

小笠原副会長 有収率と有効率の差は2,3%か。

佐々木課長 浜益の有効率はおよそ70%なので、10%ほどの差がある。末端でも放流しているが、橋梁部の管が露出している部分も、冬は給水管のみ放流している。添架しているところが多いので、橋梁の先で少し放流して、凍結防止をしている。

■ 石狩市水道料金の概要について・・・梶原主査から説明

山田会長 主に家庭用の口径の部分で値下げ改定をされたということだが、石狩市の料金収入の中で、40mm以上の大口客の占める割合は。

梶原主査 1パーセントに満たない。

山田会長 今回の改正は大半の市民に関係のある話であり、会計としては問題のない範囲での料金改定であるという考え方でよろしいか。

梶原主査 はい。

■ 石狩市水道事業経営戦略の見直しについて・・・新関課長から説明

小笠原副会長 9ページの2行目「給水収益が、横ばいで推移したことなどによる」について、給水収益がなぜ横ばいで推移したのか、その理由を書かなくて良いか。石狩湾新港の問題や人口が当初の予想より減少しなかったことが理由だと思うが。

同ページの「特別損失については」以降の文章が長いので、途中で切ったほうがわかりやすいと思う。

11ページの2行目「経営戦略値としたところ実際には水道料金収入も安定的に推移した」について、なぜ安定的に推移したのか、安定的というのは予測値より減少しなかったことだと思うが、もう少し説明を加えられたら良いと思う。

次の段落の「経費節減につながったものと考えられます」について、断定してはどうか。同様の文章が何箇所もある。

17ページの1行目「現状の組織体制を維持していくこと」について、次の段落で職員を減員すると記載があるので、整合を取り説明していただきたい。

28ページの収益的収支の表について、「繰越利益剰余金又は累積欠損金」が空欄になっているが、ゼロということか。そこ以外の部分も空欄が多いので、完結していないように見える。

新関課長 国で定められている様式に当水道事業で該当する部分に数字を入れているため、該当しない部分の空欄が目立ってしまう。資金不足している自治体はこちらに数字が出てくる。

小笠原副会長 石狩市として関係ない項目は削除してもよいのでは。

山田会長 不要であれば削除、または今後のことを考えて、空欄には「該当せず」という文言を加えるなどご検討していただければと思う。

小笠原副会長 「―」を入れる方法もある。次回以降、ご検討いただければと思う。

■ 石狩市新水道ビジョン中間報告について・・・勝又参事から説明

山田会長 5ページ目のロードマップ評価の結果の見方について、矢印は継続して実施、丸はその年度に実施したということか。

勝又参事 はい。例えば水安全計画について、実施した年度がH29なので丸を表示している。

山田会長 2番目の 効率的な施設配置の検討について、H29の欄に「H29～」という文言が特別に入っているが、他の矢印のスタート地点がH27なので、

あえてH29と入れているのか。

佐々木課長

H29は、石狩西部広域水道企業団で新たに水需要予測を示している。水需要予測の動向調査ということで、まず石狩地区、その後に厚田・浜益。浜益は浄水場の統合に向けた将来の給水予測などをしていかなければならないので、継続して行っていく形になる。

令和2年以降も継続して適宜水需要予測をしていかなければならないと考えている。

山田会長

矢印がH29からスタートしているのは何か特殊な事情があったのかと少し勘ぐってしまったが、ただH29からスタートしたという理解でよろしいか。

佐々木課長

はい。

小笠原副会長

評価結果について、一番下の項目で10点満点中5点とあるが、努力をして6点、7点を目指さないのか。

次のページのPDCAサイクルに当てはめた場合、他の項目も含めて努力目標として点数を上げる力は働かないのか。

勝又参事

各項目において点数を上げる努力は行っていきたいと考えている。

佐々木課長

理想は全部二重丸。5年過ぎて達成状況を報告したが、残り5年、この理想像に向けて努力していく。

山田会長

各方策体系に対して、H27からR1までの平均点を10点満点で一桁に集約して表示していると思うが。各年度小数点一桁まで出せば、その点数の中でも高い点数になるので、それで統一しても良いと思う。

勝又参事

参考にさせていただく。

■ 山田会長から委員会閉会宣告。

午後3時40分閉会

令和3年3月17日議事録確定

石狩市水道事業運営委員会事務局